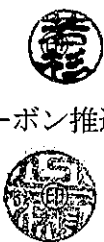


相互提案型協働事業実施報告書

2026 年 4 月 30 日

（宛先）座間市長

団体 住 所 座間市
名 称 ざま・生ごみ資源化しよう会
代表者名 代表 若杉 陽子
市 担当課名 くらし安全部 ゼロカーボン推進課
所 属 長 一之瀬 裕幸



次のとおり報告します。

1 事業名	座間の生ごみ減量化・資源化、食循環推進事業
2 事業形態	☒ 市民活動団体提案協働事業 ☐ 市提案協働事業
3 選考年度	令和6年度選考（令和7年度実施）
4 報告期間	令和7年4月1日 から 令和8年3月31日 まで
5 事業費	102,361 円（うち座間市支出分 81,361 円）
6 事業概要 （事業内容等を450字以内で御記入ください。） ※詳細な報告は、別紙事業評価シートに御記入ください。	1. ダンボール型・バック型コンポスト・キエーロ等を使った堆肥化講座の開催 2. 講座・相談会参加者や実践者へのアフターフォロー 3. 相談会の開催 4. 市のイベント等でのアピールや基材販売 5. 市フードサイクルプロジェクト事業の回収堆肥の2次発酵作業への協力 6. 1～3 の活動についての情報発信
7 添付資料	☒ 収支決算書 ☒ 事業詳細報告書 ☒ 事業記録写真 ☒ チラシなどの広報資料 ☐ 作成した冊子などの資料 ☐ その他 ()

相互提案型協働事業 評価シート

事業名	座間の生ごみ減量化・資源化、食循環推進事業
-----	-----------------------

1 協働事業の成果

協働事業により設定した事業目的が達成できたか、市民ニーズに効率的、効果的に対応できたかなど、事業の成果について評価します。

項 目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
事業の達成度	所期の目的は、十分達成できましたか。 講座、相談会の開催は計画通りに実施したが、参加申し込み数が伸びず、事業目的への市民の関心を高める難しさを感じた。一方で、市との協働により、ふるさとまつり等市の事業への参加機会を得、多くの市民と出会い働きかけることが実践者をより広げていくうえで有効との手ごたえを感じている。	概ね、達成できた。
事業成果・効果	事業を実施したことによる成果・効果について、具体的に記入してください。 講座・相談会参加者は限られていたが、毎月の広報に講座や相談会のお知らせが掲載され、公共施設にチラシが配架されることにより、市民への一定の働きかけとなった。 講座では、市民団体だけでなく、廃棄物についての市の説明もあり、生ごみ資源化の意義を納得できる場を提供できたにとらえている。 ふるさとまつりや市のフードサイクルプロジェクトイベントでのアピールや販売の機会を得て、より多くの市民に生ごみの資源化を働きかけることができた。 協働事業を実施することで、事業費を補填して基材価格を原価より下げることができており、実践者の継続に効果を生んでいる。	生ごみの堆肥化を行う市民の発掘やフォローアップを行ってもらうことにより、市のフードサイクルプロジェクト事業推進の一助となった。 また、昨年度と比較して生ごみ堆肥化容器（コンポスト）の補助金申請件数が増加した。家庭系可燃ごみは、前年同期比で減少した。

2 協働事業における取組

事業プロセスにおいて、計画段階から完了まで良好なパートナーシップが発揮されたかについて評価します。

項 目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
目的・目標の共有	十分な協議や調整により、事業目的や課題に対する共通の認識を持つことができましたか。	
	メール・会議でのやり取りや事業開催時等において、目的や課題について意見交換を行い、事業を実施する意義を共有することができた。	随時連絡を取り合う体制を構築できたことから、事業を円滑かつ迅速に行うことができた。 フードサイクルプロジェクト事業の打ち合わせや堆肥管理作業にも参加してもらい、関係各所とのパートナーシップも良好であった。事業目的や課題に対する共通認識を持つことができた。
事業の進行管理	進捗状況について情報交換を行うとともに、必要に応じてスケジュール等の見直しを行うことができましたか。	
	密に連絡を行うことで、事業をスムーズに進めることができた。	必要に応じて情報交換を行い、事業を円滑に進めることができた。
対 等 な 関 係	協働の相手として、対等な立場で協議することができましたか。	
	事業を共に進めるパートナーとして、率直に意見交換し、よりよい事業実施に向けが対等に協議を行うことができた。	双方が対等な関係性のもと、円滑かつ建設的に協議を進めることができた。
相 互 理 解	相手の立場や組織の特性の違いなどを理解し、互いに補える関係が築けましたか。	
	お互いの持ち場で力を発揮し、フォローし合える関係で事業を行うことができた。	双方の立場を理解し、相互に尊重する関係性を築くことができた。

3 協働事業における役割分担

役割分担は適正であったか、役割を果たすことができたか、相乗効果を発揮することができたかなどについて評価します。

役割分担の内容	役割分担の内容を具体的に記入してください。
---------	-----------------------

	(団体の役割) ・ 講座・相談会開催準備と開催、基材等の管理 ・ 実践者へのアフターフォロー ・ 市イベントでのアピール・販売 ・ 市のフードサイクル回収堆肥の2次発酵作業への協力 ・ SNS 等での講座・相談会開催の周知	(市の役割) ・ 講座、相談会の広報等による周知 ・ 必要なチラシ等の印刷 ・ 必要な場所の確保 ・ 講座での市のごみ処理状況の説明等
--	--	---

項 目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
適 正 さ	役割分担は適正なものでしたか。	
	適正であった。	適正であった。
実 施 結 果	設定した役割分担を果すことができましたか。	
	設定した役割を果たした。	設定した役割分担を果たすことができた。
協働による効果	それぞれが単独で実施する以上の成果を上げることができましたか。	
	講座・相談会開催の周知を広報・全公共施設でのチラシ配架を行うことできたため、事業についての市民の認識を高める効果が得られた。 講座では、市職員が市民の出す廃棄物の現状について詳細な数字をもって説明することができたため、参加者が意欲的に取り組む後押しとなった。	それぞれが単独で実施するよりも共同で実施した方が、事業成果の向上が認められた。 また、市でこれまでリーチできていなかった他の層（LFC コンポストバッグ利用者以外）もイベントに呼び込むことができた。

4 今後の具体的な展開

事業の波及効果	今後、実施事業をどのような形で展開していくことが望ましいと思いますか。	
	(団体の考え) 市のイベント等に参加してより多くの市民と出会い働きかける。 ごみや資源に関する様々な企画を実施して、関心を持つ市民の参加機会をつくり、多様な角度から、生ごみの堆肥化等資源循環の実践を働きかけていく。 今年度の活動で出会えたつながりを大事に事業を広げていきたい。	(市の考え) フードサイクルプロジェクトが市民主体の取組として発展していくことが望ましい。 また、当該取組をきっかけとして地域コミュニティの形成・強化が図られることを期待したい。